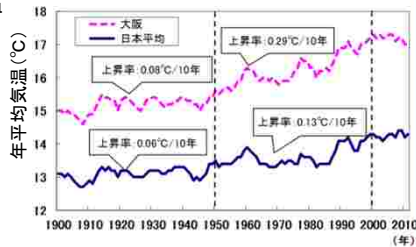


現状

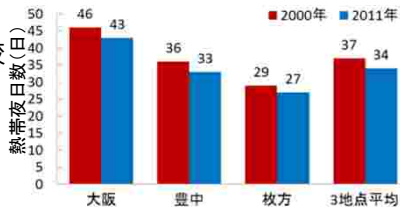
◆大阪では地球温暖化による気温の上昇や都市化に伴うヒートアイランド現象による気温の上昇により熱環境が悪化

大阪の気温：100年で約2.1℃上昇  
 全国の平均：100年で約1.0℃上昇  
 ヒートアイランド現象により100年で約1.1℃の気温上昇



◆夏の夜間について

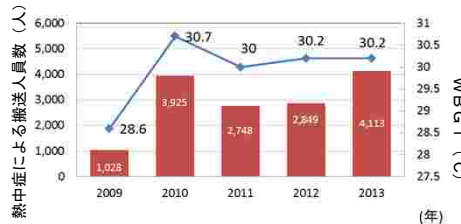
1998年から2002年の各7～9月における熱帯夜日数は現状と比較すると、大阪府域で37日⇒34日と約0.8割減少  
 地球温暖化による気温上昇の影響を除外した場合、大阪府域で37日⇒32日と約1.4割減少  
 (現状とは、5年移動平均の2011年)



◆夏の昼間について

日中の高温化による熱中症患者が2013年には4,000人を超えるなど、夏の昼間における暑熱環境が悪化し、健康被害が増加

※暑熱環境とは…人の身体に影響を与える暑さ環境のこと  
 ※W B G Tとは…気温、湿度、ふく射熱を取り入れた暑さ指数のこと



計画の趣旨

- ◆大阪府と大阪市で平成26年3月に既計画の目標等を統一した「大阪府市ヒートアイランド対策基本方針」を作成し、対策を推進。
- ◆本計画では、大阪府と大阪市が、基本方針をベースに大阪府環境審議会の答申や国のヒートアイランド対策大綱を踏まえ、ヒートアイランド対策の基本的な考え方や目標、取組内容を定めた。
- ◆従来の夏の夜間における対策に加え、夏の昼間における人の熱ストレスを軽減し、短期的に効果の現われる対策（適応策）の推進について、新たに追加した。

今後のヒートアイランド対策

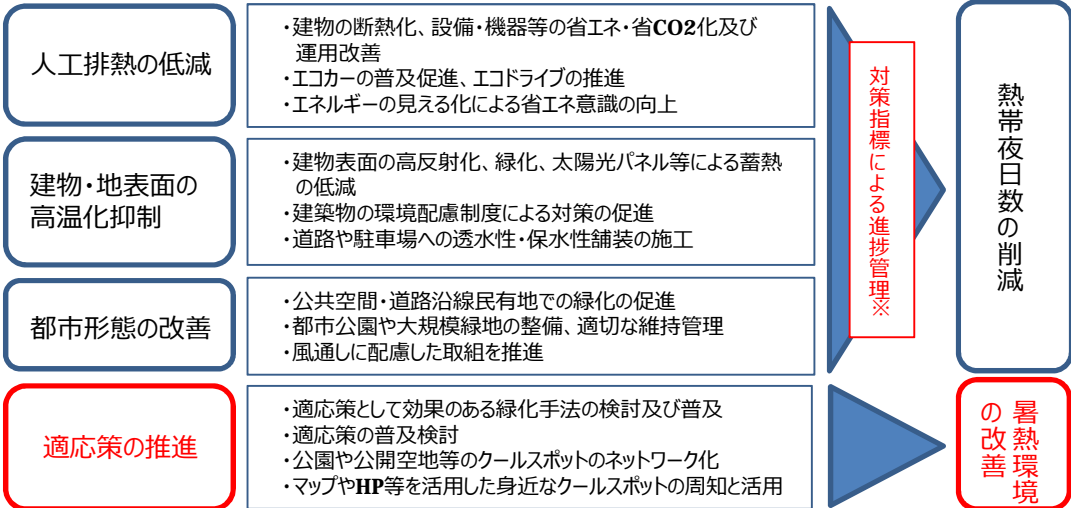
◆基本的な考え方

- 建物・地表面の高温化抑制や人工排熱の低減等の取組である「緩和策」の着実な推進
- 「緩和策」に加え、人の健康への影響等を軽減する取組である「適応策」について推進
- 特に大阪の都心部においては、都市の再開発や都市基盤の再整備の機会を捉え、多様な対策メニューについて実施
- 熱帯夜日数の削減に向け、新たに対策指標を設定し、適切に進捗管理を実施

◆計画期間：2015年度から2025年度まで

- ◆計画目標：目標1 住宅地域における夏の夜間の気温を下げることにより、地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数を2000年より3割減らす
- 目標2 屋外空間における既存のクールスポットの活用や創出をすることにより、屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善する

◆取組の推進



※ 環境省と連携して開発した「メッシュ熱負荷・気温予測システム」を活用し、対策指標から得られる大阪府域の気温変化量を把握し、熱帯夜日数の削減対策の進捗管理を行う

対策指標…①省エネ活動実施率、②高反射塗装・瓦普及率、③屋上緑化普及率、④壁面緑化普及率、⑤太陽光パネル普及率、⑥透水性・保水性舗装普及率、⑦高反射舗装普及率、⑧市街地における緑被率

◆進行管理、推進体制

毎年、熱帯夜日数の状況やヒートアイランド対策の取組状況等について点検・評価を実施  
 府域市町村とさらなる連携によりヒートアイランド対策を推進